

1: 【The Black Note】第1話 過去からの呼び声
2:
3: ■オープニング
4:
5: デュレモノローグ「光のあるところには、必ず影ができる。歴史もそれは同様で、表の歴史のすぐそばに、裏の歴史がいつも存在していた。けれどあの頃は、誰一人として、そんなことを考えてはいらなかった。その歴史が表か裏かなんて、そのときを生きているものにはなんの関わりもな
6: いことなのだから……」
7:
8: ■タイトルコール
9:
10: デュレ「The Black Note第1話・『過去からの呼び声』」
11:
12: ■本編
13:
14: >>魔法学園、学園長室
15:
16: 学園長「デュレ。これから、君に行って欲しいところがある」
17: デュレ「……イヤです」
18: 学園長「内容も聞かずに拒否することはないだろう？」
19: デュレ「いいえ！ 学園長みずからが、こうやってわざわざ私を呼び出して話をしている時点で、
20: るくな話ではないのがわかっていますから！」
21: 学園長「それなら、わかるだろう？ 君に拒否権がないということも」
22: デュレ「それは、脅しですか？」
23: 学園長「いやいや、まさか。ただ、これは卒業研修でね……やらなければ、単位を認められない、
24: というんだよ」
25: デュレ「そういうことを脅迫というんです……」
26: 学園長「まあ、諦めることだ。……行ってくれるね？」
27: デュレ「……わかりました。どこで、何をすればいいんですか？」
28: 学園長「シメオン遺跡に行ってもらいたい」
29: デュレ「シメオン遺跡ですって！ あの、魔物の巣窟になっていて……冒険者たちが何人も行方知
30: れずになっているという、あのシメオンですか？」
31: 学園長「その通りだ。そこで、調査隊の手伝いをしてもらいたいのだよ」
32: デュレ「どうして、私なんです？」
33: 学園長「調査隊にはセレスがいる」
34: デュレ「セレス！ なんですって！ あの、島エルフのセレスがいるっていうんですか？」
35: 学園長「その通り。調査は難航している。めばしい発見もなく、時間だけが過ぎていく……こう
36: なったら、我々は彼女の能力に頼るしかない」
37: デュレ「だからって、私が行く必要は……」
38: 学園長「セレスの能力を、引き出せるのは君だけだ。わかるね？」
39: デュレ「わかっています。でも……」
40: 学園長「これは決定だ」
41: デュレ「……はい……」
42:
43: >>夢のシーン
44:
45:
46:

47: SE：雨の降る音
48: SE：雷鳴
49: SE：木々のなぎ倒される音
50:
51: デュレ「これ以上、待つことはできません——」
52:
53: SE：雷鳴
54:
55: デュレ「この町には、あなたたちが必要なんです」
56:
57: SE：雷鳴
58:
59: デュレ「だから……、手遅れになる前に……、早く！ あなたたちしか、いないの」
60:
61: SE：雷鳴
62:
63: デュレ「あの時計を、見てください」
64:
65: SE：雷鳴
66: SE：時計の針が動く音
67:
68: デュレ「今は、まだ、大丈夫……。でも、あの時計の針が13時を超えてしまったら！」
69:
70: SE：雷鳴
71:
72: デュレ「おしまいなんです……なにかかも」
73:
74: SE：雷鳴
75:
76: デュレ「時間が足りない……だから、早く！ 早く来て！ 私には時間がない……ッ！」
77: SE：ひととき大きな雷鳴
78:
79: >>現実世界、シメオン遺跡
80:
81: セレス「誰なの……あなたは、誰なの！」
82:
83: SE：がぼっ、と起き上がる音
84:
85: セレス「……あれ」
86: シリア「なんだ、どうした、セレス。うなされてみたいだけど」
87: セレス「うん……夢を、見たの……」
88: シリア「夢？ どんな？」
89: セレス「思い出せない……でも、すごく怖い夢だった」
90: シリア「怖い夢、ねえ」
91: セレス「うん。リボンちゃん、ちょっと枕になって！」
92: シリア「なんでそうなるんだよ！ おい、こら、やめろ」

08.07.29
TBN01改.rtf

93: セレス 「リボンちゃんの、ケチ」
94: シリア 「当然だろ。フェンリルを枕にしようしたり、リボンちゃんなんてあだ名をつけたりする
95: のは世界広しといえどもお前くらいのもんだ」
96: セレス 「だって、リボンちゃんって、枕にちょうどいい大きさしてるんだもの。そのおなかの辺り
97: の毛のふさふさ加減なんか最高よ？ 尻尾だってリボンをつけたらすこくカワイイと思うし……シ
98: リアなんて名前より、リボンちゃん、の方がカワイイし」
99: シリア 「……まったく。いいけどな」
100: セレス 「えへへ、私の勝ち？」
101: シリア 「勝ち負けを競うような話題じゃなかったと思うけどな……まあ、いい。ちょっと用事が
102: あってきたんだ」
103: セレス 「用事？」
104: シリア 「ああ。調査隊員から、『怪しい男を見た』って話が아가ってきてるんだよ」
105: セレス 「怪しい男……まさか、盗掘！？」
106: シリア 「それも考えられる。どうする？」
107: セレス 「もし盗掘だとしたら、放っておくわけにはいかないよね……」
108: シリア 「ああ。まあ、何もできないだろうけど……民間人が立ち入るには危険ではあるし」
109: セレス 「じゃ、そいつらを捕まえに行こう！」
110: シリア 「了解。目撃情報がある場所を回るとしようか」
111:
112: >>シメオンのどこかで
113:
114: SE：草を掻き分ける音
115:
116: ウィズ 「間違いない……。この奥に、探して求めていたものが……」
117: セレス 「あ、いた！」
118: ウィズ 「なっ……誰だ、お前は！」
119: セレス 「人に名前を訊ねるときは、まず自分から名乗るものじゃないの？」
120: ウィズ 「あいにく、名乗りを上げられるような身分じゃないんでね」
121: セレス 「盗掘家だもんね」
122: ウィズ 「違うさ」
123: セレス 「どう言い訳したって、やってることが盗掘とおんなじだってことは変わらないわ。大人し
124: くしなさいっ！」
125: ウィズ 「大人しくしろといわれて、素直に従うと思うか？」
126:
127: SE：剣を抜く音
128:
129: セレス 「実力行使、ってわけ？」
130:
131: SE：弓の弦をはじく音
132:
133: セレス 「まさか、弓を相手に、剣で勝てると思ってる？」
134: ウィズ 「勝てるさ」
135: セレス 「へえ。どうするつもり？」
136: ウィズ 「こうするのさっ！」
137:
138: SE：地面を蹴る音

08.07.29
TBN01改.rtf

139:
140: セレス 「きゃっ」
141:
142: SE：剣を振る音
143:
144: ウィズ 「こうやって間合いを詰めてしまえば、もうこっちのものさ」
145: セレス 「なるほどね。それで、私をどうするつもり？ エスメラルダの残党さん」
146: ウィズ 「ほう。この紋章の意味がわかるのか」
147:
148: SE：ちゃぎっ、という音
149:
150: セレス 「その、紺色の鷹の紋章。見たことがあるの」
151: ウィズ 「ただのエルフじゃないようだな」
152: セレス 「あなたもね。とっくの昔に滅んだ国の紋章をつけて、こんなところでコソコソしてるなん
153: て……」
154: ウィズ 「黙れ」
155:
156: SE：ごすっ、と頭を殴る音
157:
158: セレス 「うっ……」
159: ウィズ 「俺が優しい男でよかったな。女は殺さない主義だ」
160: セレス 「……どこ、が……」
161: ウィズ 「悪いな。だが俺は……久須那を見つけ出すまでは……」
162:
163: SE：遠ざかる足音
164:
165:
166: >>夢の中
167:
168: SE：雷の音
169: SE：雨の音
170: SE：燃え盛る焔の音
171: SE：時計の秒針が動く音
172:
173: デュレ 「急いで……！ 時間が、ないんです」
174:
175: SE：時計の秒針が動く音
176: SE：雷の音
177:
178: デュレ 「早くしないと……黒い炎が」
179:
180: SE：雷の音
181: SE：時計の秒針が動く音
182:
183: デュレ 「黒い翼の天使たちが！」
184:

08.07.29
TBN01改.rtf

185: SE：雷の音
186: SE：時計の秒針が動く音
187:
188: デュレ 「ああ……黒い炎が、町を飲み込んでしまう。黒い翼の天使たちがやってくる……！」
189:
190: SE：時計の秒針が動く音
191:
192: >>現在に戻る
193:
194: デュレ 「……ス、セレス」
195: セレス 「ん……デュレ……？」
196: シリア 「やっと起きたか」
197: セレス 「あ……リボンちゃん。私……」
198: シリア 「倒れてたんだ。何があった？」
199: セレス 「エスメラルダの残党らしき男にあって……殴られて、それで……」
200: デュレ 「それで気を失っていた、というわけですか。まったく、情けない」
201: セレス 「そう……情けないことに気を失って……雷が、鳴ってて……」
202: デュレ 「雷？」
203: セレス 「誰かが私を呼んでるの。時計塔の上に立って。なんだろう、聞き覚えのある、懐かしい声
204: だった……」
205: デュレ 「セレス！ しっかりしなさい！」
206:
207: SE：バシッ、と頬を叩く音
208:
209: セレス 「いたっ！ 何するのよ！」
210: デュレ 「やっと正気に返りましたね。セレス、私わかりますね？」
211: セレス 「わかるに決まってるでしょ！ ダークエルフの、デュレだ」
212: デュレ 「そうです。私が来た理由はわかりますか？」
213: セレス 「理由……何かを、伝えるため……？」
214: デュレ 「……ダメですね。セレスは何か……まるでとりつかれているみたい。リボンちゃん、心
215: 当たりはありますか？」
216: シリア 「なんでお前まで『リボンちゃん』なんていうんだよ！」
217: デュレ 「その方がじっくりくる見た目をしているからです。それで、心当たりは？」
218: シリア 「でっかいタンコブができてるし、そのせいだろ」
219: デュレ 「確かに、額には大きなコブができていますが……でも、だからといって、この様子は……」
220: セレス 「ごめん……少し、……寝かせて……。なんだか、すごく、眠い……」
221:
222: SE：ばた、と倒れる音
223:
224: デュレ 「セレス！？」
225: シリア 「お、おい。大丈夫か！」
226: セレス 「ねむ……いの……」
227:
228: >>夢の中
229:
230: SE：雨の音

08.07.29
TBN01改.rtf

231: SE：鐘の音
232:
233: デュレ 「ああ！ もうダメ……時間が来てしまった！」
234:
235: SE：鐘の音
236:
237: デュレ 「でもまだ、間に合います。今ならまだ……今すぐ、壁を越えて！」
238:
239: SE：鐘の音
240:
241: デュレ 「時計塔の中にある……天使たちをつれて……」
242:
243: SE：風の吹く音
244:
245: デュレ 「セレス……。時計塔にある門を越えて、白い翼の天使・久須那と一緒に壁を越えるの。わ
246: たしと探せば必ず見つかる。だから……」
247:
248: >>現代
249:
250: セレス 「デュ、デュレ！」
251: デュレ 「なんですか？」
252: セレス 「あれ……デュレ、どうしてここに？」
253: デュレ 「知らないんですか？ 発掘を手伝うように、学園長から頼まれたんです」
254: セレス 「リボンちゃん、知ってる？」
255: シリア 「知ってるもなにも、とっくに伝えてあるはずだぞ」
256: セレス 「そうだっけ。ごめん、忘れちゃってた」
257: デュレ 「まったく、そんなにうかつだから……盗掘家なんかに、後れを取るんです」
258: セレス 「あれは……向こうもなかなか強かったから」
259: シリア 「単独行動は避けるべき、というわけだ。ただの盗掘家じゃないんだな？ 相手は」
260: セレス 「うん。かなりの使い手だった。エスメラルダの紋章を持ってたし……」
261: デュレ 「エスメラルダの紋章。厄介ですね」
262: セレス 「厄介、って？」
263: デュレ 「一筋縄ではいかない相手、ということです。お金目当ての盗掘家なら、まだ、対処のしよ
264: うもあります……」
265: シリア 「エスメラルダの残党ってことは、何かこのシメオン遺跡に相当、執着があるんだろうって
266: ことさ」
267: セレス 「でも、ほっとくわけにはいかないよね？」
268: デュレ 「当たり前でしょう。盗掘は犯罪ですよ？」
269: セレス 「だよな。捕まえないと。それに……」
270: シリア 「どうした？ 何か、気になることでもあったのか？」
271: セレス 「うん。久須那、って言ってた」
272: デュレ 「久須那ですって！」
273: セレス 「ウン、確か、そう言ってた気がする」
274: デュレ 「協会十二天使の一人……天使長の久須那のことでしょうか」
275: セレス 「多分、そうだと思う。あ、そう、久須那といえば……」
276: デュレ 「何か思い当たることでも？」

08.07.29
TBN01改.rtf

277: セレス 「ねえ、ここに時計塔があったのは、いつの時代の話？」
278: デュレ 「時計塔？」
279: セレス 「うん、大きな時計塔。その上にデュレが立ってた」
280: デュレ 「私？」
281: セレス 「久須那に会え、だったっけ……なんかそんなことを言われたの」
282: シリア 「時計塔がここにあったのは、224年前までだな。シメオンが減びるときに、一緒に時計
283: 塔も崩れさった」
284: セレス 「……だとしたら、あれは224年前の話……？ でも、デュレが……」
285: デュレ 「私がどうしたって言うんです？」
286: セレス 「デュレがいたの。時計塔の上において……必死になにかを訴えてた」
287: デュレ 「でも私はそこまで年を取ってはいませんよ」
288: セレス 「そうだよ。だから、おかしい……なんでデュレが……」
289: シリア 「まあ、考えても仕方ないだろ？ そのエスメラルダの残党を捕まえて、久須那について
290: 聞き出せばいいじゃないか」
291: セレス 「あ、それもそっか。よし、そうしよう！」
292: デュレ 「まったく、立ち直りが早いですね」
293: セレス 「えへへ。でも、どうしよ？ ばらばらに探す？」
294: デュレ 「それで気絶させられていたのは誰ですか」
295: セレス 「う……。じゃあ、みんなで？ でも、さすがにそれじゃ効率が悪いよ」
296: デュレ 「魔法で探査しましょう」
297: セレス 「おおっ！ そんなことができるの!？」
298: デュレ 「セレス、あなたはいったい、学園で何を学んできたんですか」
299: セレス 「だって……あんまり、得意じゃないんだよ。魔法」
300: デュレ 「それが次席で卒業だなんて、あきれた話ですね」
301: セレス 「な、なによお！ 苦手なもの一つや二つ、誰にだってあるでしょ!」
302: デュレ 「セレスの場合は一つや二つじゃありませんからね」
303: セレス 「デュレってばひどーいっ!」
304: シリア 「まあまあ、二人とも。まずはエスメラルダの残党を探さないと」
305: デュレ 「ああ、そうでした。危うくセレスのペースに巻き込まれるところでしたね」
306:
307: SE: ざっ、と何かを広げる音
308:
309: セレス 「ん？ 何、それ」
310: デュレ 「このあたりの地図ですね」
311: シリア 「地図……って、ほとんど真っ白だなあ」
312: デュレ 「まだ発掘中の遺跡なんてこんなものです」
313: セレス 「で、その真っ白な地図でどうするの？」
314: デュレ 「ダウジング……というのを、知っていますか？」
315: セレス 「ああ、あの、何かが地面の中に埋まっているかどうかを調べるやつでしょ？」
316: デュレ 「似たような魔法があるんですよ」
317:
318: SE: ちゃら、と鎖の音
319:
320: セレス 「そのペンダントでできるの？」
321: デュレ 「ええ。セレス、手を貸してください」
322: セレス 「ん？ 私？ 何をすればいいの？」

08.07.29
TBN01改.rtf

323: デュレ 「私の手の上に手をのせて」
324: セレス 「はい」
325: デュレ 「あとは気配をたどります」
326:
327: SE: ほわぁ～ん、という感じの音
328:
329: セレス 「うわ、すごい。光ってる」
330: デュレ 「静かにしててください。集中する必要があります」
331: セレス 「はぁ～い」
332:
333: SE: ちかっ、という音
334:
335: デュレ 「どうやら……この辺りのようです。ここには何があります？」
336: セレス 「ここは……えっと。リボンちゃん、ナンだっけ。この辺りにあるの」
337: シリア 「こ、ここは……」
338: セレス 「リボンちゃん？ どうしたの？」
339: シリア 「あっ！ いや、なんでもない」
340: セレス 「そう？ でもハアハア言ってるよ。まるで夏の犬みたい」
341: シリア 「犬扱いですなっ!」
342: セレス 「だって、どうみても真っ白でおっきな犬だよ」
343: シリア 「俺はフェンリルだっ!」
344: セレス 「あはは、ムキになっちゃってリボンちゃんってば、かわいい!」
345: シリア 「くっ……」
346: デュレ 「それで、ここはどこなんです？」
347: シリア 「あ、そうだったな。ここは……大聖堂の跡地だ」
348: セレス 「大聖堂の跡地？」
349: シリア 「224年前に黒い天使たちによって滅ぼされた、シメオンの中心部さ」
350: セレス 「じゃあ、もしかして、そこに時計塔も……」
351: シリア 「あったな」
352: セレス 「そんな……どうしよう。デュレ」
353: デュレ 「どうしようって、何がです」
354: セレス 「いやな予感がするの。なんだろう、この感じ……」
355: デュレ 「セレス？ 顔が真っ青ですよ」
356: セレス 「怖い。怖い……」
357: デュレ 「落ち着いて。夢なんて、ただの夢です。あなたは遺跡に影響されているだけ」
358: セレス 「そうかもしれないけど！ でも、私のカンが訴えてるの!」
359: デュレ 「セレス!」
360:
361: SE: ぎゅ、と抱きしめる音
362:
363: セレス 「……デュレ……」
364: デュレ 「落ち着いて。大丈夫ですから……ね？」
365: セレス 「……うん。でもごめん、ちょっとだけ、このまま甘えさせてもらっちゃってもいい？」
366: デュレ 「ふふ、あなたが私に？ なんだか変な感じですね」
367: セレス 「そうかな？ なんだか今は、怖くて怖くてたまらなくて……誰かにすがりたい気分なの」
368: シリア 「……俺も混ぜてくれ」

369: セレス 「わふっ！ やだ、リボンちゃんってば！ くすぐりたいよぉ！」
370: デュレ 「生きたぬいぐるみ、って感じですね」
371: シリア 「狼だからな。狼」
372: デュレ 「わかっていますよ、リボンちゃん」
373: シリア 「……なんか悔しいな」
374: セレス 「もう、二人ともありがとうっ！ ちょっと落ち着いたら、ここ、行って見よう！」
375: デュレ 「ええ。そうしましょうか」
376: シリア 「……今のうちに休んでおいた方がいいしな」
377: セレス 「ん？ リボンちゃん、何か言った？」
378: シリア 「いや……なんでもない。ほら、どうだこの尻尾は！」
379: セレス 「ぎゃー、ふかふかっ！ ほらほらデュレも触ってみて！」
380: デュレ 「これはなかなかいいさわり心地ですね」
381: セレス 「でっしょー！ いつも枕になってもらってるの！」
382: シリア 「勝手に枕にしてる、の間違いだろ」
383: セレス 「だってだって！ すごく寝心地がいいんだもんっ！」
384: デュレ 「それは興味深いですね。今度、私もお願いします」
385: セレス 「だってよ、リボンちゃん！」
386: シリア 「……もう好きにしてくれ」
387:
388: >>大聖堂跡地に
389:
390: セレス 「ここが、大聖堂跡地……瓦礫の山だね」
391: シリア 「もう、ずいぶん昔に滅びたからな」
392: セレス 「大聖堂っていうくらいだから、でっかい建物だったんだよね。ここにそんなものがあつたんだ」
393: シリア 「ああ……」
394: セレス 「あれ？ どうしたの、リボンちゃん。なんだか懐かしそうな顔」
395: シリア 「俺はお前たちよりずっと長く生きてるからな」
396: セレス 「そっかあ」
397: デュレ 「ちょっと、そんなのんきにしないで。エスメラルダの残党がそのあたりに潜んでいるかもしれないですからね」
400:
401: SE:ざっ、と土を踏む音
402:
403: ウィズ 「それは俺のことかい？」
404: デュレ 「あなたが！」
405:
406: SE: ばっ、と護符を構える音
407:
408: ウィズ 「おっと、魔法使いか。安心してくれ、コトを構える気はない」
409: デュレ 「信用できませんね。昨日、セレスに何をしたか覚えているでしょう？」
410: ウィズ 「それはエルフのお嬢ちゃんが武器を出してきたからさ」
411: デュレ 「どうだか……。エスメラルダの残党が、ここにどんな用ですか？ ここは立ち入り禁止区域だと知らないわけはありませんね？」
412: ウィズ 「知っているさ。だが、ここは……来る必要がある場所だった。それだけだ」
413: デュレ 「来る必要のある場所？」

415: ウィズ 「知っているだろう。このシメオンが、どうして滅びたか……」
416: デュレ 「本に書いてある程度のことならね」
417: ウィズ 「ここには絵があるのさ」
418: デュレ 「絵？」
419: セレス 「それって、久須那と関係があるの？」
420: ウィズ 「その通り。久須那の封じられた絵がここにあるんだ」
421: セレス 「久須那が？ 封じられている？」
422: ウィズ 「そう……俺は久須那に会いに来たんだ」
423: デュレ 「そんなもの、本当にあると思っているんですか？」
424: シリア 「ある」
425: セレス 「えっ!？」
426: ウィズ 「おお、ただの犬じゃないんだな、そいつは」
427: シリア 「フェンリルを犬呼ばわりするとはいい度胸をしているな」
428: ウィズ 「ああ、悪い悪い」
429: シリア 「どうやってかぎつけたかは知らないが……この奥には確かに、久須那の封じられた絵がある」
430: シリア 「どうして、リボンちゃんがそれを知っているんです？」
431: シリア 「それは……まだ、言えない」
432: デュレ 「言えない？」
433: セレス 「なんで？ どうして？ 知ってるなら、なんで教えてくれなかったの？」
434: シリア 「この場所を見つけることはできないだろうと思っていたからな」
435: セレス 「え？ どういうこと？」
436: シリア 「ここは……封印されている。だから、普段は人の目に触れることはない」
437: デュレ 「でも、そんな気配は何も感じませんよ？」
438: シリア 「この中の誰かが、選ばれている」
439: デュレ 「選ばれている？」
440: シリア 「久須那の絵は見る相手を選ぶ」
441: ウィズ 「つまり……今日になってこの場所が見つかったのは、そっちの誰かが久須那に選ばれているからだ、と？」
442: シリア 「そういうことになる」
443: デュレ 「なかなか面白そうな話ですね」
444:
445: SE: しゅっ、と護符を収める音
446:
447:
448:
449: デュレ 「どうです、エスメラルダの残党さん。久須那の絵を見たいんでしょう？ 行きませんか？」
450: ウィズ 「俺にはちゃんと『ウィズ』って名前があるぜ」
451: デュレ 「じゃあ、ウィズ。私たちと一緒に行きませんか？」
452: ウィズ 「それはかまわないが……どうしたんだ、突然」
453: デュレ 「何があるかわからない場所ですからね。こちらはかわいい女性が二人に、フェンリル1頭。男手はあっても困るものではないでしょう」
454: ウィズ 「なるほどね。よし、乗った」
455: セレス 「い、いいの？ そんなに簡単に」
456: デュレ 「ええ……大丈夫。怪しい動きをしたら、すぐに……燃やしてしましましょう」
457: ウィズ 「怖い女だな……」
458: デュレ 「何か言いましたか？」
459: ウィズ 「い、いや！ なんでも！」

08.07.29
TBN01改.rtf

461: デュレ 「さて、そういうことになりましたし。行きましょうか」
462:
463: SE: 歩き出すざっ、という足音
464:
465: シリア 「こっちだ」
466:
467: SE: たたたっ、と動物が駆ける音
468:
469: セレス 「待ってよ～、リボンちゃん！」
470:
471: SE:
472:
473: >>大聖堂跡にて
474:
475: セレス 「ううっ、暗くて狭くてイヤな感じ……」
476:
477: SE: カツーンカツーンと足音が響く
478:
479: デュレ 「何を怖気づいてるんです？」
480: セレス 「だって！ イヤじゃない、生理的に！」
481: デュレ 「私はあまり気になりませんが……」
482: セレス 「どうせデュレにはわかんないよ！」
483: ウィズ 「おいおい、緊張感のないヤツらだな。ここをどこだと思ってるんだ？」
484: セレス 「大聖堂跡でしょ」
485: ウィズ 「わかってるならもう少し緊張感を持ったらどうなんだ」
486: セレス 「そんなこと言ったって、もうずいぶん歩いてるのに何もなし……いい加減、緊張感も品切れしちゃうよ」
487: ウィズ 「どんな魔物がひそんでるかわからないんだぞ？」
488: セレス 「大丈夫だよ、リボンちゃんもいるし。リボンちゃんはすごく鼻がきくんだよ！」
490: シリア 「……褒められているのに、素直に喜べないのはどうしてだろう……」
491: セレス 「え？ そお？ 細かいことか気にしちゃダメだよ、リボンちゃん！」
492: シリア 「まあ、いいが」
493:
494: SE: カツーンカツーンと足音が響く
495:
496: ウィズ 「それにしても、ここは……大聖堂跡、っていうより、拷問部屋の見本市、って感じだなあ」
497: デュレ 「そのようですね。本でしか見たことのないような拷問器具が、こんなにもキレイな形で残っているなんて。貴重な資料です」
498: セレス 「ううっ、そういう怖いこと言うのやめてよお」
499:
500: SE: ぎゅ、という抱きつく音
501:
502:
503: デュレ 「あ、こら。抱きつかないでください、うっとうしい」
504: セレス 「だって怖いんだもん！ しょうがないでしょ！」
505: デュレ 「歩きにくいんですよ」
506: セレス 「そんなに冷たくしなくていいじゃないっ！」

08.07.29
TBN01改.rtf

507: ウィズ 「だから……お前たちは……」
508:
509: SE: キン！ という硬い音
510:
511: セレス 「えっ！？ 何、この音」
512: サスケ 「誰の許しを得て、ここに立ち入った！」
513: セレス 「だ、誰って……誰？」
514: ウィズ 「なんで俺に振るんだよ！」
515: セレス 「だ、だって～」
516: サスケ 「ここがどこだか知っているのか」
517: デュレ 「知っていますよ。シメオン遺跡の、大聖堂跡。おそらくこの辺りは拷問部屋のあったあた
518: りでしょう」
519: サスケ 「そういうことを言っているわけではない！」
520: シリア 「おい！」
521: サスケ 「ん……？」
522: シリア 「わからないのか？ 忘れたとは言わせないぞ」
523: サスケ 「シリアか」
524: シリア 「ああ」
525: セレス 「え、リボンちゃんが……2匹？」
526: シリア 「匹とか数えるな！」
527: セレス 「あ、ごめん。じゃあ2頭」
528: シリア 「あんまり改善されてないだろ」
529: セレス 「だ、だって。どうしようデュレ。他にになにか言い方あるかな？」
530: デュレ 「1リボン、2リボンあたりでどうでしょう」
531: セレス 「あ、それいい！ 採用！」
532: シリア 「採用するなっ！」
533: サスケ 「リボンちゃん……か。しばらく見ない間に、ずいぶん可愛くなったな」
534: シリア 「ほっとけ！」
535: サスケ 「ふふ。それでリボンちゃん、今日はどうしてこんなところに？」
536: シリア 「お前までリボンちゃんとか言うな！」
537: サスケ 「で、どうなんだ、リボンちゃん」
538: シリア 「くうっ……セレス、お前のせいだからな！」
539: ウィズ 「まあ、それはともかくとして。話が進まないだろ」
540: シリア 「そうだった……今日は『彼女』に会いに来た」
541: サスケ 「久須那に？」
542: シリア 「そうだ」
543: サスケ 「見たところ、そう強そうにも見えないけどな」
544: シリア 「まあ、ここに入れるってコトは……そういうことだろう」
545: サスケ 「なるほど……」
546: デュレ 「久須那に会いに来たって、どういことですか？ ここにあるのは絵でしょう？」
547: サスケ 「何も話していないんだな」
548: シリア 「ああ……まだ、何もな」
549: サスケ 「なるほど。まあ、それなら道をふさぐ必要はなさそうだな」
550: シリア 「そういうことだ」
551: セレス 「な、なんなのよ！ 全然、話がわからないんだけど！」
552: デュレ 「できれば、わかるように説明していただきたいですね」

553: シリア 「その辺りは歩きながら話そうか」
554:
555: SE: 大勢が歩いていく足音
556:
557: シリア 「まずは、どこから話せばいいのか……」
558: デュレ 「久須那に会いにきた、といいましたね。私たちが探しに来たのは久須那の絵のはずです」
559: シリア 「ああ、その通り。ここにあるのは久須那の絵だ。でも、ただの絵じゃない」
560: ウィズ 「どういことだ？」
561: シリア 「久須那が封印されている」
562: セレス 「どうして？ なんで、久須那は絵の中に封印されてるの？」
563: デュレ 「それも不思議ですが、それ以前に……なぜ、久須那の封印をとかないんです？ フェンリル」
564: ルガが2頭もいれば、そのくらいできるはずでしょう？」
565: シリア 「俺たちは……守るように言われたのさ。久須那をな」
566: デュレ 「守る？ 誰がそんなことを言ったんです？」
567: シリア 「レルシア枢機卿さ」
568: デュレ 「なんですって！ レルシア枢機卿！？」
569: セレス 「えーっと、レルシア枢機卿って……誰だっけ」
570: デュレ 「まったく、あなたは本当にこれまで何を学んできたんです？ レルシア枢機卿といえば、
571: 今の協会レルシア派の基礎を作った人でしょ？」
572: セレス 「それはわかってるよ、さすがに。でもそれと久須那とどんな関係があるの？」
573: デュレ 「レルシア枢機卿は久須那の姪です。知らないなんてどうかしてるわ」
574: セレス 「知らないんじゃないくて、度忘れしたんだよ！」
575: デュレ 「どうだか」
576: セレス 「あ、疑ってる！ ひどい！」
577: ウィズ 「落ち着けよ。それで、レルシア枢機卿はなんでまた、そんなことを頼んだりしたんだ？」
578: シリア 「久須那の力が必要だったんだ」
579: ウィズ 「それならなおのこと、封印なんかすることないだろうに」
580: シリア 「いや……時がまだ、来ていなかった」
581: デュレ 「時？」
582: シリア 「まあ、この先は……今は言えない。そのうち、お前たちにもわかる時がくる」
583: デュレ 「今は、言えない？」
584: シリア 「すべてのカギを握るのは、お前たちだから……」
585: デュレ 「どういことです」
586: シリア 「さて、ついたな」
587: デュレ 「ごまかさなさいください！」
588: シリア 「まあまあ、まずは久須那とご対面というじゃないか」
589: セレス 「そうだよ、デュレ。リボンちゃんもさ、きっとあとで話してくれるつもりなんだよ」
590: デュレ 「おめでたいこと。まあ、いいでしょう。この奥に久須那の絵があるんですね？」
591: シリア 「ああ。ウィズ、お前はここに残って欲しい」
592: ウィズ 「ん？ 俺は連れてってもらえないのか？」
593: シリア 「悪いが、少し待っていてくれないか」
594: ウィズ 「なんだよ、俺はのけものってか」
595: サスケ 「まあまあ、拗ねないの。少し相手してやるからさ」
596: ウィズ 「よし、じゃあ体中三つ編みしてリボン結びまくるぞ」
597: サスケ 「そ、それはちょっとイヤだけど……」
598: ウィズ 「それくらいさせるよ。暇なんだから」

599: シリア 「少しくらいならいいだろう。がんばれよ」
600: サスケ 「助けてくれないのかよ！」
601: セレス 「なんか楽しそうね。後で私も混ぜてね」
602: シリア 「ほら、セレス。行くぞ」
603: セレス 「あ！ 待ってよ〜！」
604:
605: SE: 階段を駆け下りていく音
606:
607: デュレ 「ずいぶん、地下まで行くんですね」
608: シリア 「地上に近いと、見つかる危険性があったからな」
609: セレス 「なるほどね〜。でも、なんだか、だんだん寒気がしてきたよ。地下にもぐりすぎたせいか
610: な」
611: デュレ 「気温も下がっているでしょうけど……どちらかという、魔力を感じますね。とても強い」
612: シリア 「まあ、久須那を封印するくらいの魔力だからな」
613: セレス 「まるで空気が刃物みたい」
614: シリア 「あれは確かに……刃物に近い」
615: セレス 「ん？ 何？ あれって」
616: シリア 「見ればわかるよ。ほら、ここだ」
617:
618: SE: 水滴の落ちる音
619:
620: セレス 「これが……久須那の絵」
621: デュレ 「大きいですね……私たちの3倍くらいはありそうです」
622: シリア 「久須那を封印するとすると、このくらいのサイズは必要だったのさ」
623: セレス 「そうなんだ……本当に生きてるみたいだもんね」
624: デュレ 「この中で久須那は生きている、ということなのでしょうね」
625: シリア 「その通りだ。時間は止まっても、彼女はこの中で生き続けている」
626: デュレ 「でも、リボンちゃん。この絵からはあなたによく似た魔力を感じるんです。これは、気の
627: せいですか？」
628: シリア 「いや……さすが、デュレだな」
629: セレス 「まさか、リボンちゃんが久須那を！？」
630: シリア 「さて、どうだろうな」
631: セレス 「そんな……だって。リボンちゃんが、そんなこと……あ！ まさか、リボンちゃん……本
632: 当にリボンちゃんなの……！？」
633: シリア 「どう思う……？」
634:
635: >>2 話へ続く